

子どもとの関係づくりを大切にするために

～人間関係づくり ちょっと！アイデア集～

生徒指導・特別支援教育部 専門主事 宮田 恭子

研究の概要

子どもとの関係づくりを振り返る「関係づくり」振り返りシートの活用方法について提案する。教師が子どもとより良い関係を築くためには、関係づくりを意識しながら関わり続ける必要がある。しかし、多忙な日々の業務や生徒指導上の問題への対応など、教師の様々な状況によって、関わる姿勢や態度に配慮できない状況もあることから、自身の振り返りによる意識化や、その意識を継続させる工夫が必要になる。その工夫として、同僚との対話や子どもとの関わりの中での変化の実感が必要である。また、教師は個々の持ち味で関係づくりを進めており、子どもの状況に合わせて工夫していることから、その工夫を教師同士で語り合うことが学び合いになり、子どもとのより良い関係づくりに向けた意識化と継続の支えにつながるだろう。

(キーワード) 関係づくり 教師の姿勢や態度 同僚との対話 関係づくりアイデア

I テーマ設定の理由

本県において、いじめや不登校といった問題は喫緊の課題であり、H25 年 9 月にはいじめ防止対策推進法が施行された。この法の第十五条には「心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめ防止に資する」と述べられている。関係づくりは、いじめ予防の観点からはもちろん、様々な教育活動の基盤として大切である。

昨年度、教師が子どもとの関係づくりを意識化する「関係づくり」振り返りシート(以下、振り返りシートと記す)を作成した。実際、教師が振り返りシートを使用し、関係づくりに関する自身の姿勢を振り返ることが、日常の関係づくりへの意識の高まりに繋がることが分かった。

しかし、より良い人間関係を築いていくためには、関係づくりへの一時的な意識化に停まらず、その意識した関係づくりの工夫を継続することが大切であり、昨年度の課題として残された。

今年度は、総合教育センターで実施する研修講座において振り返りシートの活用を促し、学校へ戻って 1 ヶ月間の取組を続けることによって、教師は子どもの姿や子どもとの関係に変化を感じ、成果を実感できるのかを明らかにし、また意識を継続するための工夫についても合わせて考えたい。

その結果を踏まえ、振り返りシートを活用した校内研修の進め方を提案する。

II 研究の内容

1 「関係づくり」振り返りシートについて

(1) 「関係づくり」振り返りシートの目的

- ① 教師自身の関係づくりへの姿勢や態度を振り返り、関係づくりへの意識化を促す。
- ② 取組項目を決めることによって、意識した関わり方の継続を促す。

(2) 昨年度の経過と研究の目的

昨年度は、関係づくりを進めるための第一歩として、教師自身の振り返りが必要だと考え、「視点の広がり」が感じられる振り返りシートの作成を目指した。振り返りシートを記入することによって、関係づくりについての「意識化」を図り、その効果を検証した。今年度は更に、振り返りを行った後に、意識を持続させることによって、教師は子どもの姿や自身の意識、関わり方に変化を感じ、成果を実感できるのかを明らかにし、シートのさらなる活用を目指したい。

(3) 「関係づくり振り返りシート」の観点

教師と児童生徒との関係づくり（以下①②）、児童生徒同士の関係づくりを進める働きかけ（以下③④）について、以下の5つの観点から、計35の振り返り項目を示した。

① 温かい関係づくり

一人ひとりの気持ちを共感的に受け止め、子どもの存在を大切にする。

② 一人ひとりの理解

行動面だけではなく、内面の理解や子どもを取り巻く背景も合わせて理解する。

③ 集団の温かい関係づくり

友達の話聞くことを基本として、相互理解を深めさせる。

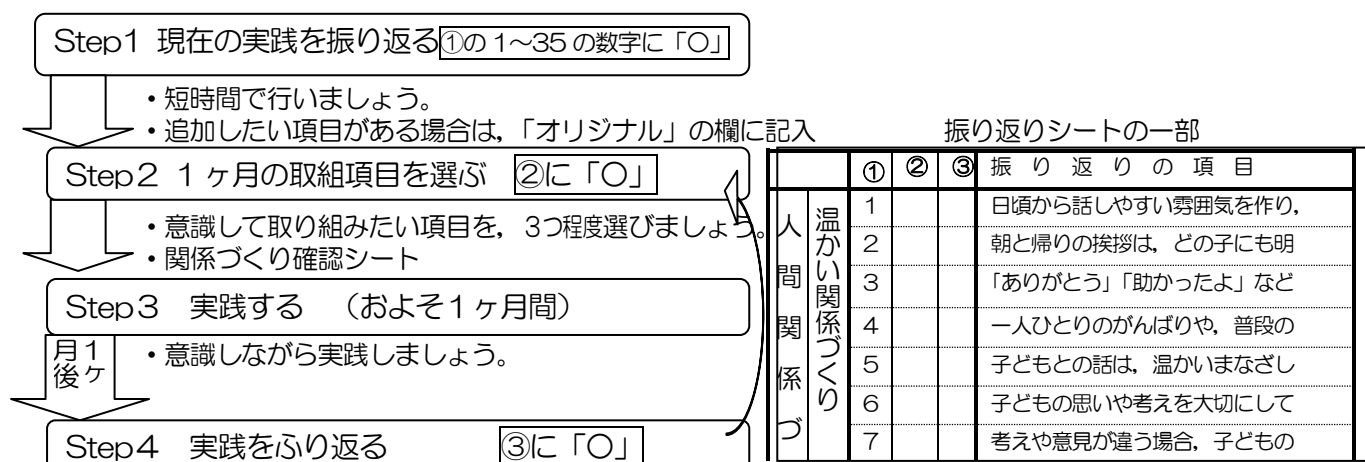
④ 集団の安心ルールづくり

安心安全な学校生活が送れるように、集団生活のルールやモラルを維持させる。

⑤ 問題発生予防・対応

サインを見逃さず、予防的に関わる。

(4) 個人による「関係づくり」振り返りシート活用の手順



- Step1～3の1ヶ月間の実践が終わったら、再度、意識して取り組みたい項目を選んで取り組む。
- 同じ項目を継続して選んでもよい。

2 研究方法

(1) 対 象

義務2年次研修、希望研修、校内研修支援における受講者273名において、アンケートを依頼し、返信があった74名（回収率 27.1%）から分析する。

(2) 方 法

対象者には、研修講座Step1で現在の実践を振り返り、Step2で取組項目を選んだ後、各学校に戻って1か月間の実践を経て、あらかじめ配布したアンケートに回答し返信してもらう。なお、アンケートは、自由提出とした。

アンケートの回答や自由記述から、以下の点を分析する。

- ① 意識した関わりを続けた結果、子どもの姿や自身の意識、関わり方に変化や成果を感じられたか。
- ② 教師は、1ヶ月間の実践を通して「関係づくりについて、気づいたこと・感じたこと」を自由記述で回答する。なお、その回答から、教師の気づきについて分析し、意識の継続につながる要因を分析する。
- ③ それぞれの教師の関係づくりの工夫を集めて、アイディア集としてまとめる。

なお、③についての対象は、小・中5年経験者研修受講者を加え237名とした。
関係づくりの実践報告から、個々の教師の関係づくりのアイデアを集め、まとめる。これは、教師が実践する際に見返し、関係づくりへの意識を喚起し、新たな工夫を学ぶための資料とする。

④ 以上を踏まえ、振り返りシートを活用した校内研修の進め方を提案する。

3 研究の結果

(1) 教師が実践を経て感じた変化（1ヶ月間の実践後にアンケートを実施）

協力していただいた74名のアンケート結果から、1カ月間の意識した関わりによって、教師は子どもの姿や自身の意識、関わり方に変化を実感できたかを調査した。なお、振り返りシート記入時に選択した取組3項目のうち、1項目でも「継続できた」と回答した教師は「継続できた」に含めた。

図1 継続した74名のうち変化を実感できた割合

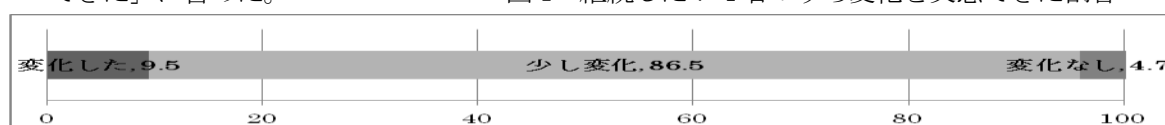
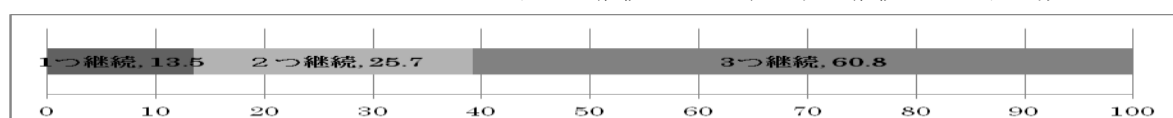


図2 継続した74名のうち継続できた項目数



自由提出によるアンケートの回収結果(27.1%)の様子から、アンケートを返信した教師74名のうち、1項目でも意識した関わりが続けられた教師は74名全員であり、その中で少しでも変化を実感できた教師は71名（「変化した」と「少し変化した」の合計 95.6%）であったことから、1ヶ月間続けられれば、何らかの成果を感じることができる。なお、継続につながった理由や継続に至らなかった理由については、以下の表にまとめた。

継続できた理由	継続できなかった理由
・事前の <u>研修</u> を通して意識を高めることができた。	・時間が経つにつれ意識が薄れ、忙しさもあって、1カ月意識を継続することが難しい。
・机上や指導案簿に <u>取り組む具体を記し</u> 、意識することを心掛けた。	・自分の <u>気持ち</u> が影響して、思うように聴くことができなかった。
・ <u>先生方</u> と取り組みについて <u>話題にした</u> 。	・自分の癖が直らなかった。
・意識して、毎日過ごすように心がけた。	・どうしても <u>できないところに目</u> がいく。
・ <u>学級目標</u> として取り組んだ。	・個々に関わる <u>時間がとれなかった</u> 。

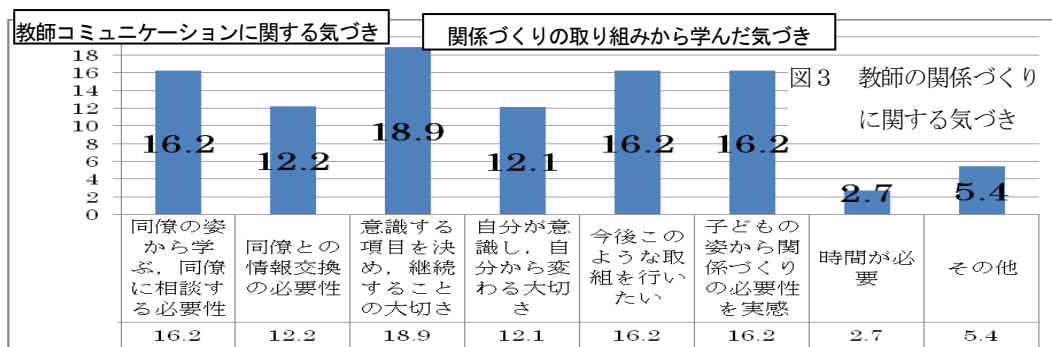
【考察】 以上より、事前の研修や取組の視覚化、また、学校内で日常的に話題にする等、意識を持続けられる工夫が必要である。また、「自分の癖が直らなかった」、「思うように聴けない」など、感情面のコントロールや習得している態度の修正が必要な場合もあり、長期的に意識を持続け続ける必要がある。

(2) 関係づくりに関する教師の気づき

1ヶ月間の実践中に「同僚・先輩教師と関係づくりに関する対話や同僚の実践を観察する」という課題を行うようにアンケート内容に加えた。約1ヶ月経ったところで「関係づくりの実践から気づいたこと感じたこと」を自由記述にて回答を求めた。ここで自由記述としたのは、実践を行った中で、印象深く大切に感じられた事柄が記述されると考えたからである。74名分の自由記述の内容を見ると「教師同士のコミュニケーションに関する気づき」と「関係づくりの取組から学んだ気づき」がほとんどであった。「関係づくりの取組から学んだ気づ

き」より「教師のコミュニケーションに関する気づき」を記述している教師は、関係づくりを進める上で、その必要性を強く感じた教師であると思われる。

また、それぞれの内容を意識の継続にかかわる要因から細分化し図3のように集計した。



更に、細分化した項目ごとに、個々の教師の記述を取り出し、意識の継続にかかわる要因を以下の①、②のようにまとめ分析した。

① 教師同士のコミュニケーションに関する個々の教師の気づき

同僚とのコミュニケーションに関すること	個々の教師の気づき
同僚の姿勢から学ぶ、同僚に相談する必要性 16.2%	・分からないことは、<u>すぐに聞くようにしたところ</u>、その先生も<u>気にかけてくれ</u>、声をかけてくれた。指導法や子どものこと等、様々な<u>情報を得る</u>ことにつながった。 ・つい先走ってしまいがちな自分に、「今考えているからもう少し待ってみよう」と声をかけてもらい、いつも<u>一步待つことを大切に</u>している。 ・若手と語り合う中で、<u>一生懸命さが伝わって</u>、負けてはいられないと<u>その姿から学ばせて</u>もらっている。 ・<u>学年主任の先生は</u>、子どもの<u>どんな小さなことでもほめていた。</u>
同僚との情報交換の必要性 12.2%	・教師同士で情報交換をして問題が解決するわけではないが、<u>生徒を理解する上で大切</u> ・若手と対話し、お互いの<u>接し方の良いところを確認</u>し合った。改めて考えていることを<u>言葉にすると意識化</u>できる。お互いの<u>こだわりを知る機会</u>をとる。 ・<u>客観的な意見を聴く</u>ことがとても良かった ・<u>共通の話題を持つ</u> ・日々の実践や子どもの姿、<u>悩みを教師同士で共有するために</u>、<u>話す</u>ことが効果的だと思った。 ・<u>学級通信等の交換</u>で交流したい。 ・話をすることで<u>楽になり</u>、<u>ヒント</u>をもらうことがある。

【考察】 教師間での日常の対話によって、「必要な情報を得る」、「相談につながる」、「アドバイスを得る」、「児童生徒理解につながる」、また「言葉にすると意識化する」など、関係づくりへの意識化が促されていた。また、対話によって「ヒントをもらう」「同僚の姿勢から学ぶ」など意欲を高める機会につながっていることも見えてきた。

以上のように、日常の同僚との対話を増やすことが、関係づくりを進める上で意識を持ち続けることにつながっている。

② 関係づくりに関する個々の教師の気づき

関係づくりに関すること	個々の教師の気づき
意識する項目を決め、継続することの大切さ	・小さな取組であっても、<u>意識して継続</u>することで、<u>小さな変化は得られる</u>と感じた。 ・何気なく指導している場面が多いので、<u>項目を意識</u>することが大切だと思った

18.9%	・諦めず、<u>変化が起こるまでに時間がかかる。</u> ・関係は日々<u>積み上げることによって生まれ、築かれていく</u>と思った。
教師自身が意識し・自分から変わる必要性 16.2%	・子どもを変えるには、<u>自分が変わる</u>ことだと再確認した。 ・意識して行うことで、<u>自分自身や子どもの変化を注意深く観察</u>できるようになった。 ・<u>取り組みれば必ず変わるもの</u>だと思った。 ・振り返りシートに記入することで、<u>取り組みの意識</u>ができた。
今後このような取組を行いたい 16.2%	・安心して自分のことが言える学級を作るには、まず<u>聴く姿勢を育てて</u>いきたい。 ・子どもの<u>少しの変化にも気づける</u>ようになりたい。 ・<u>色々な人の気持ちに目を向けられる自分</u>でありたい。
子どもの姿から関係づくりの必要性を実感 12.1%	・関係を作る力が<u>クラスにとって大切</u>。 ・誉めることが自信につながり、<u>子どもを更に伸ばすことにあらためて気づく機会</u>になった。

【考察】 以上より、

- ・項目を決めて取り組むと関わりの場面が意識化され、継続されやすいことはもちろん、「意識することによって、子どもを良く見るようになった」等、子どもの変化を観察する場面ともなり、変化を捉えやすくなったといえる。
- ・「同じことをしていても何も変わらない。小さいことでも教師が働きかければ、子どもたちは必ず応えてくれる」等、教師は子どもの変化を実感したことによって、積極的に関係づくりを志向することが変化につながると気づいた教師も見られた。
- ・「聴く姿勢を育てていきたい」等、自身が大切にしたい具体的姿勢や「仕事が忙しく、子どもの話を聞いていない」等の自身の課題への気づきは、次への実践につながる意識化になったと考える。

(3) 教師の関係づくりの工夫を集めて、「関係づくり ちょっと！アイデア集」として提案

個々の教師が実践している関係づくりの工夫について、アンケートによる自由記述から集めた。教師から個々の工夫した関わりが寄せられ、どの教師も自身の持ち味を生かし、子どもの状況に合わせて取り組んでいる様子が分かった。その具体については別紙の通り、「関係づくり ちょっと！アイデア集」としてまとめた。

日々の関わりの中では、変化を実感できずに不安が生ずることもあるが、ちょっとした関係づくりのアイデアに触れることによって、子どもの成長や子どもを大切にしている教師の温かな心を感じ、前向きな気持ちになることができる。そこで、アイデア集を個々の教師が見返し、関係づくりへの意識を高めることができればと考えた。また、学校内の実情に合わせ教師同士の対話が増えるきっかけになり、教師同士の学び合いや校内の仲間づくりにつながることを期待する。

III 成果

1 意識した関わりを持続けるために

意識を喚起する機会や、意識を持続ける働きかけとして、以下の3点が必要である。

(1) 振り返りシートの Step 2において、取組項目を決めること

特に個々の教師が意識を持続ける工夫として、項目を視覚化したり、また学級目標と重ねたり、常に意識する環境を作ることが、継続につながる。

(2) 日常の教師同士の対話を進めること

「子どもの変化」「大切にしている取り組み」「取り組みの工夫」を対話することによって「相談する」「学び合う」などの教師同士の関係の深まりにつながって、子どもとのより良い関

係づくりを進めるための基盤になる。

(3) 子どもの変化を捉える機会を作ること

教師は、子どもの変化を実感することを通して、自身の姿勢や態度の在り方を振り返る必要性を再認識し、子どもの状況に合わせて、関わり続ける姿勢を強く感じている。

2 教師同士の対話を進め、学び合える関係を作る校内研修

上記にて、教師同士の対話を進める必要性を述べたが、シートを活用して関係づくりを行うための校内研修についてポイントを述べる。

(1) 学年会など小グループでの語り合い

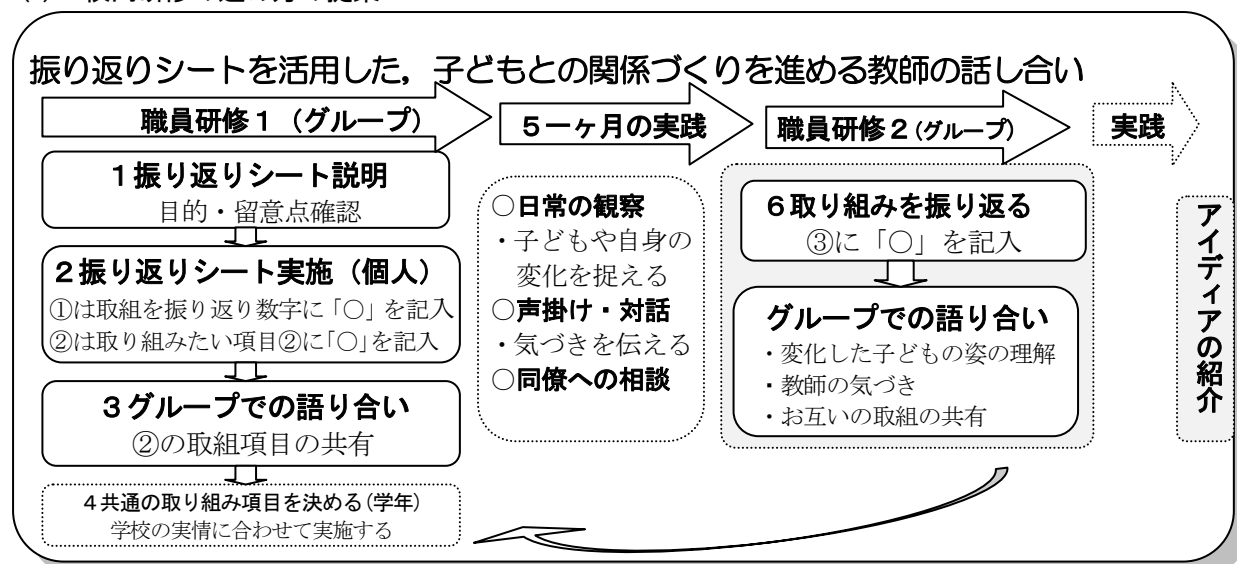
振り返りシートを記入した後に、教師同士の対話が進められるきっかけとして「語り合う」機会を作る。そこで、個々の教師がお互いの取組項目を紹介し合うと、日頃の子どもの姿や同僚の姿の観察に結びつき、同僚への声掛けにつながりやすくなる。

また、1カ月後には、子どもや自身の意識、関わり方などの変化を「語り合う」機会を作ると、取組を進める中で変化を捉える意識が高まり、変化を実感しやすくなる。そして、その変化は子どもの成長や関わりを促進した前向きな内容であるため、お互いが理解することによって、次への実践意欲につながる。

(2) アイディアを共有する機会を設定

1ヶ月以降も取組項目を決めてステップを繰り返すが、学校の状況に合わせて数カ月経過したところで、お互いが継続して取り組んできた関係づくりのアイディアを出し合い、語り合う機会を作る。「関係づくり」は、教科や分掌の枠を超えてどの教師にも共通する課題であるため、誰でも語り合うことができ、また自身の取組から得られた変化であるからこそ、教師同士が実感する学び合いにつながりやすい。教師自身の大切にしている取組を教師同士で理解できれば、対話が進められる関係につながり、子どもとの関係づくりの意識を高めることにつながるだろう。

(3) 校内研修の進め方の提案



- 〔参考文献・引用文献〕 (1) 文部科学省平成 22 年 3 月 生徒指導提要 (2) 達人に学ぶ学級経営力 千葉市教育センター
(3) 達人に学ぶ授業力 千葉市教育センター (4) 子どもが育つ条件 柏木恵子
(5) 教育心理学 倉石精一編著
(6) ほめる叱る教師の考え方と技術 赤坂真二
(7) 学級づくりと授業に生かすカウンセリング 諸富祥彦

「関係づくり」 振り返りシート（試案）

～教師と子どもの「関係づくりに役立てる・関わる視点を広げる」～

①の欄は・・・「現在取り組んでいること」の数字に「○」をしましょう。

②の欄は・・・「今後 1 ヶ月間、取り組みたいこと」に「○」を記入し、取り組みましょう。（3 つ程度）

③の欄は・・・およそ 1 カ月後に実践を振り返り、継続できたことには「○」をしましょう。

★自分が大切にしている「関係づくり」の具体例があれば、オリジナルの欄へ加えてご記入ください。

		①	②	③	振 り 返 り の 項 目
子 ど も と の 人 間 関 係 づ く り	温かい関係づくり	1			日頃から話しやすい雰囲気を作り、笑顔でかかわっている
		2			朝と帰りの挨拶は、どの子にも明るく元気に声を掛けている
		3			「ありがとう」「助かったよ」など感謝の言葉を伝えている
		4			一人ひとりのがんばりや、普段の小さな良い成長をほめている
		5			子どもとの話は、温かいまなざしを向け、子どもの気持ちになって最後まで聴いている
		6			子どもの思いや考えを大切に、少数意見も取り上げている
		7			考えや意見が違う場合、子どもの気持ちは尊重しつつ、自分の考えを伝えている
	一人ひとりの理解	8			健康観察やプリント・提出物を渡す時は、名前を呼び一言添えるなど、声かけをしている
		9			教育相談などの機会をとって、一人ひとりの気持ちを理解している
		10			放課後や休み時間に、子どもとの世間話や趣味などの対話の機会を作っている
		11			子ども一人ひとりの良さと課題を理解し、その子の願いを共有している
		12			生活記録や日記などの提出物には目を通して、肯定的なコメントをしている
		13			給食準備・清掃などを共に行い、授業以外の取り組みの様子を観察している
		14			いつもと違う様子の子どもや目立たない子どもに声を掛けている
	集団の温かい関係づくり	15			子どもたちの関係や特性等を理解して、座席決めや班編成を行っている
		16			友だちの意見や発表を黙って最後まで聴くように、発表者に注目させている
		17			「良いところ見つけ」を行うなど、学級全体や活動集団で良さを確認している
		18			ペア活動、グループ活動を取り入れ、子ども同士が本音で話せる場を作っている
		19			学活などで、教師自身の経験談（成功・失敗談）など、前向きになる話をしている
		20			思いやりのある姿や集団活動に貢献する姿がみられた時は、全体の前で紹介している
		21			どの子にも役割を持たせ、色々な立場の役割を経験させている
	集団の安心ルールづくり	22			子どもたちのモデルとなるように、授業の開始と終了の時間を必ず守っている
		23			集団のルールが守れるように、子ども達みんなで話し合わせ、理由を共有させている
		24			集団で決めたことや、自分が提案したことは、自分も含め集団全体で守っている
		25			指示は、子どもの注意を向けて、分かりやすい言葉で、はっきり短く伝えている
		26			ルールを守れなかった時見逃さず、その場で正しいルールを子どもに確認している
		27			授業の終了時、集中して取り組めたことや授業のルールが守れた時は、評価している
		28			子どもの良い行動をモデルとして取り上げたり、学級・学年通信などで紹介している
	問題発生予防・対応	29			アンケートを実施するなど、何らかの方法で、SOSを認識しようとしている
		30			友だちとかかわれない子どもには、具体的なかわり方を一緒に考えている
		31			感情コントロールが苦手な子どもの落ち着く方法や場所を知っている
		32			いじめや傷つける言動が見られた時は、学級の問題としてどうしたらよいかを考えている
		33			トラブルが起きた時、その日のうちに、関係者から事実を確認して対応している
		34			子どもがけがをした時は、優先してその子に対応している
		35			欠席が3日続いた時は、連絡の上、家庭訪問をしている
オ リ ジ ナ ル	オリジナル	1			
		2			
		3			

1 カ月間の取組を行っている際、子どもたちの変化を観察するように心掛けましょう。

また、学校の中で、他の先生の子どもとの関係づくりの工夫を探してみましょう。

